

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------|---|
| 事業所番号 | 0475102307 | | |
| 法人名 | 有限会社 さくら | | |
| 事業所名 | グループホームさくら高野原 | ユニット名 | A |
| 所在地 | 仙台市青葉区高野原4丁目12-29 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 年 月 日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年10月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>・入居されてる方が安心して楽しく過ごしていただけるよう日々努力しています。</p> <p>・最期のその日まで、その人らしく生活していただけるよう精一杯心を尽くしています。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>玄関に1月は羽子板、3月はお雛さま等その時期の置物が訪問者を温かく迎えてくれアットホームである。「地域に根ざし地域に暮らす人々と共に、楽しく安らぎのある生活を送ることができるよう支援します」を理念に掲げ、ホーム主催の伝統あるフリーマーケットには多くの地域住民の出店、参加があり、入居者と共に楽しみ地区の行事、学校との交流も盛んである。職員もチームワークは完璧と胸を張り、運営体制も確立されている。入居者・家族の安心につながっている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームさくら高野原)「ユニット名 A 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月例会議時に職員全員で唱和し、理念の共有とその実践に努めている | グループホームの理念を年頭で振り返り、全職員が「身内と思ひ自分の嫌な事はしない、笑顔を引き出す発語を促す」の目標を掲げ、職員一人ひとりが地域住民との交流、ケアの実践に活かしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 年2回のフリーマーケットの開催や、小・中学校の生徒の学習を積極的に受け入れている。また、地域や学校行事に招待された場合は参加するように努めている。食品の移動販売を迎え、地域の方々にも利用していただいている。 | 地域の行事である音楽会、小中学校の学習発表会に参加をしたり、ホーム主催のフリーマーケットには、八百屋さん始め地域住民に大勢の参加いただく等、相互交流に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 要請があればキャラバンメイトとして、認知症サポーターの養成に役立つよう心がけている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 報告のみならず、その時にいただいたご意見や情報を検討し、ホーム運営に活かしている | 会議で入退居者及び待機者の状況、行事等の報告を行っている。民生委員の発案でクリスマス会にサンタクロース役で他の民生委員の参加があった。家族より職員の顔写真掲示の要望があり検討中である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者とは必要な時だけになってしまいが地域包括とは日常的に連携している | 介護度の区分変更や更新等について指導を受けている。集団指導を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に研修を行い、日頃の対応について再認識をし十分に留意し、ケアにあたっている | 日中玄関の施錠はなく、見守りと観察に努めている。研修では、入居者と同じ目線で言葉使い「それしないで、ちょっと待って」等、具体的事例を基にし情報を共有している。ベッド柵、車椅子の点検にも注意を払っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に研修を行い、再認識をし十分に留意し、ケアにあたっている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員は定期的な勉強会で学ぶ機会を設けている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約内容に変更がある場合は、事前に文書にて皆様にお伝えし、ご了承いただいた上で実施している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置すると共に、常に要望を出すことができるよう配慮している | 入居者の意見・要望は日常の触れ合いの中で、家族は運営推進会議、面会時に聞き取るように努めている。家族より入居者にマッサージを受けさせて欲しいとの要望があり、現在5人の入居者が受けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のケアカンファレンスや随時、スタッフは意見や提案をしている | 月1回のカンファレンスの際と、2年に1回程度の個人面談の際に意見を聞いている。今年度4月と9月給与改定し待遇改善をはかった。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 張り合いを持って日々勤めると共に、定年まで安心して働けるよう常に考慮している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会への参加の機会を設けたり、資格取得への奨励を行っている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 実践者研修の実習先の受け入れや交換研修で他グループホームでの研修を受けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居開始前に本人及び家族の状況を把握し、スムーズな入居を心がけている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 実調などで事前に生活歴などをお聞きし、ホームでの暮らしに不安のないよう寄り添った対応を心がけている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居開始前の状況を踏まえ、不安を感じることなく過ごせるような配慮と必要なケアを具体的に提供している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様にお手伝いしていただける事柄に了承を得てご協力いただき感謝の意を表している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や毎月のお便りを活用し、入居者様のご様子をお伝えしたり、ご家族様からのお話を伺ったりしながら共有を図り、共に支えていく関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族やご友人の訪問はいつでも受け入れられている。子供さんの家を訪ねることに配慮している | 定義山参りに行ったり、電話で家族と近況を話す方もいる。毎週のように面会に来る家族もあり、来訪の際にはゆっくり過ごせるような支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 良好な関係が保てるよう配慮、会話やリクリエーションを通じてより親しくなるよう日々心がけている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他県に移られた場合も一度は訪ねるようにしている。ご遺族にもグリーフケアを意識して対応している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントや日々の生活のなかでの会話や表情などから意向の把握に努め、またご家族からの情報などから把握するよう努めている | 日常の会話や言動から把握している。把握困難な場合はいろいろな質問をし、それに対する返事・表情から察知している。その人の思いを汲み取り、楽しく安らぎのある生活を送ることの出来る支援を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からお話を伺ったり、入居前の生活状況の家族調書から情報を得て把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りを確実にし、その日の心身の状態を把握し、留意しながら見守り現状把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々のケアの中で気づいた点や改善したところがよい点などご家族からの話などを統合し、計画作成・棟チーフ・管理者で会議を行い、介護計画の作成に反映させるよう努めている | 定期的な担当者会議や入居者との日々のコミュニケーションから現状を確認している。医師の助言を受け、痛みなく、苦しなく、家族の負担にならない様に見直しを行い家族に説明し同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の個人記録への記入や1ヶ月ごとのモニタリングでの現状把握、スタッフ間での情報交換により活かしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 心身の状況に合わせ、ご家族と話し合い、その方に合ったサービス提供に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域に行動範囲を広げた生活を常に念頭におき支援している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医の説明をし受診の承諾を得ている。内科・精神科は月2回の往診を受けている。その他、必要に応じて受診している。 | 月2回かかりつけ医の往診により日常の健康管理、緊急時にも迅速に対応できる体制となっている。歯科についても訪問診療で対応している。受診予定は「さくら通信」に記し家族に知らせている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が配置され、日常的に情報の共有がなされている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時の介護サマリーの提供や、日常病室に見舞い状態を把握し、一日も早い退院とその後の安定した生活に努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 管理者と医師の指示のもの、全職員で方針を共有し、そのつどご家族に状態を伝えながら、チームで支援している | 入居時に終末期の基本的な考え方の説明を書面で行い、同意書を取り交わしている。但し直面した場合には、必要に応じて状況の説明を行い、その都度書面で意思確認を行っている。これまで多数の看取り経験がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 随時、カンファレンスにおいて学習し、実践力を身に付けている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、夜間火災想定避難訓練を行っている | 年2回ユニットA・ユニットBより交互の出火と夜間想定を基に避難訓練を実施している。今年度、職員の声掛けにより婦人防火クラブ、近隣住民も見守り役として参加協力を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | カンファレンス時に情報交換し、常に全職員が意識して心がけている | 〇〇さんと名前で呼びかけている。会話は大声を出さない、他人に聞こえないように等、具体的な事例を挙げ研修を行い、プライバシーを損ねないケアを実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いを把握するよう配慮し、尊重した支援ができるよう心がけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な生活リズムに合わせて、一人一人のご希望に添った生活ができるよう努めている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回散髪をし、その人好みのその人らしい髪型にしている。着替えは自由だが、一緒に選ぶなど楽しめる工夫をしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日にはその方の希望のメニューを提供している。敬老会、クリスマス会など行事の時は特別メニューを楽しんでいただいている。スタッフが同席し、会話を楽しみながら食事している。後片付けなどの仕事を一緒にしていただいている。 | 栄養面について管理栄養士の指導を受けている。食事時には職員が入居者の隣に座り、話をしながら食事をしている。誕生会等では、入居者の希望を取り入れ食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 3食の摂取量やおやつを含めた水分摂取量を記録し把握している。食事量が少ない場合はその他の食物で補っていただくなど配慮している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週1回の歯科往診でのケアの実施と朝、夕の口腔ケア、その他随時必要に応じてケアをしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | できるだけ自分でトイレ使用ができるよう、居室内に特別にポータブルトイレを設置したり、トイレの場所がわかりやすいよう表示している。お一人お一人の排泄を記録し、それを参考にトイレ誘導している | 排泄パターンは24時間表で把握し、昼夜を問わず誘導している。夜間対応は居室にポータブルトイレを置き、パッド交換等に対応する。声掛けは、尊厳を重視し「待って」等の言葉は慎んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便の出やすくなる飲物や食物などその方に合った飲食物を見つける努力をし提供している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 状況を見ながら、入居者様の意向に添って入浴できるように努めている | 3日に1回の入浴をしている。寝たきりの入居者には子供用のプールを活用するなど工夫している。室温に配慮し脱衣所に床暖房を設置している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 気温や温度に注意を払い、適温適湿を心がけている。 その時々体調や年齢に応じた休息をとっていただけるよう配慮している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お一人おひとりの薬箱に薬名と効能、用法、用量を記入し理解を深めている。薬の変更があった場合も連絡と薬箱への記入、ご本人の様子を観察して個人ファイルに記入している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 状況を見ながら一人ひとりの生活歴や嗜好を取り入れ、役割やレクリエーションにて楽しみながら張り合いが持てるよう支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族との外出、外食はその都度支援している。近くのお店に買い物委行く機会をつくっている。 ご希望があれば、実現できるよう検討してみる。 | 松島方面のドライブや秋保名物「おはぎ」を買いに行っている。散歩や近所での買物等、要望に応じた個別支援につとめている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 認知症の症状が進んでおり、ご本人による自己管理はできない状態である | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 認知症の症状が進んでおり、手紙を書くことや電話の利用ができない状態である | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には月ごとの飾りつけをしている。新年、おひなさま、七夕、クリスマスに飾りつけを行い、季節を感じていただいている。乾燥する季節には加湿器を使用している。毎日の清掃と手すりなどの消毒で清潔を心がけている | ユニットAは洋風、ユニットBは和風の絵、写真等を壁に掛け、落ち着いた雰囲気である。廊下は床暖、リビングには加湿器があり、適温湿の管理がされている。入居者はゆったりと椅子にもたれかかり寛いだ様子で落ち着いて過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やリビングにソファを置き、好きな場所を地用していただいている。事務室、他の棟にも出入り自由で会話を楽しんでいた | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居する際、なじみのある家具等を持ってきていただいている。居室のしつらえはご家族、ご本人におまかせしている。 | 全室洋間、床暖で適温に管理され清潔に保持された快適な居室である。入居者各々が家族の写真、テレビ等馴染みの物を持ち込んで、本人が心地良く過ごせるよう工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの「できること」「わかること」を活かせる安全な環境づくりを心がけている。必要に応じて見守り、介助している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------|---|
| 事業所番号 | 0475102307 | | |
| 法人名 | 有限会社 さくら | | |
| 事業所名 | グループホームさくら高野原 | ユニット名 | B |
| 所在地 | 仙台市青葉区高野原4丁目12-29 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月 6日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年10月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・入居されている方が安心して楽しく過ごしていただけるよう日々努力しています。 ・最期のその日まで、その人らしく生活していただけるよう精一杯心を尽くしています。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>玄関に1月は羽子板、3月はお雛さま等その時期の置物が訪問者を温かく迎えてくれアットホームである。「地域に根ざし地域に暮らす人々と共に、楽しく安らぎのある生活を送ることができるよう支援します」を理念に掲げ、ホーム主催の伝統あるフリーマーケットには多くの地域住民の来店、参加があり、入居者と共に楽しみ地区の行事、学校との交流も盛んである。職員もチームワークは完璧と胸を張り、運営体制も確立されている。入居者・家族の安心につながっている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームさくら高野原)「ユニット名 B J」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員と管理者が話し合い理念を作り上げたものであり、理念は常に目のつく場所に掲示し、再確認しながら業務を行っている | グループホームの理念を年頭で振り返り、全職員が「身内と思い自分の嫌な事はしない、笑顔を引き出す発語を促す」の目標を掲げ、職員一人ひとりが地域住民との交流、ケアの実践に活かしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し地域や学校の行事に招待された場合は参加を心がけている 年2回、フリーマーケットを開催し、近所の方々との交流を図っている | 地域の行事である音楽会、小中学校の学習発表会に参加をしたり、ホーム主催のフリーマーケットには、八百屋さん始め地域住民に大勢の参加いただく等、相互交流に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 来訪者、電話相談、ご家族様のお知り合いの方などの悩みを真摯に受け止め対応している 認知症サポーター養成講座の講師として、地域への広報に努めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、定期的にご家族様、町内会の代表、民生委員、地域包括センターの職員の皆様方にお集まりいただき状況報告をし、ご意見ご要望を聞くなどさらなる向上に努めている | 会議で入退居者及び待機者の状況、行事等の報告を行っている。民生委員の発案でクリスマス会にサンタクロース役で他の民生委員の参加があった。家族より職員の顔写真掲示の要望があり検討中である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 疑問、質問等があった場合は早めに連絡し、問題解決にむけ指導を受けるよう努めている | 介護度の区分変更や更新等について指導を受けている。集団指導を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | カンファレンス等の機会に話し合い再確認し、常に注意を払って取り組んでいる。 | 日中玄関の施錠はなく、見守りと観察に努めている。研修では、入居者と同じ目線で言葉使い「それしないで、ちょっと待って」等、具体的事例を基にし情報を共有している。ベッド柵、車椅子の点検にも注意を払っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | カンファレンス等の機会に再確認し、常に注意を払っておりあってはならない事であると認識している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 定期的カンファレンスで研修を行っている。必要性が認められる場合は制度の紹介や活用法について伝えるようにしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約には時間をかけ説明しているが、契約後にも不明な点や疑問には随時答えて納得していただいている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議でご意見ご要望をお聞きしている。苦情窓口、意見箱を設置している。ご面会時にはお話しする機会を設け、直接ご意見ご要望を伺っている。 | 入居者の意見・要望は日常の触れ合いの中で、家族は運営推進会議、面会時に聞き取るように努めている。家族より入居者にマッサージを受けさせて欲しいとの要望があり、現在5人の入居者が受けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ケアカンファレンスなどの場において意見や提案をしている。また定期的に個人面談を実施している。 | 月1回のカンファレンスの際と、2年に1回程度の個人面談の際に意見を聞いている。今年度4月と9月給与改定し待遇改善をはかった。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的個人面談を実施しており、資格取得に向けた働きかけを作っている。要望に関しては前向きに取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会などに参加する機会を設けている。資格取得への奨励も行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会の研修、行事に参加。研修を通して同業者との交流を図っている。研修内容をカンファレンスで周知し、サービスの質の向上に役立てている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安を少しでも軽減していただけるように話しかけたり、一日の流れを理解して安心して過ごしていただけるよう働きかけたり努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | お話を伺って少しでも不安を軽減していただけるよう対応に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 必要な支援を見極め、そのサービスが実現するよう対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様の無理のない範囲で力を貸していただき(洗濯物たたみ、食器拭き、掃除など)職員は感謝するという関係を築け、一方的な支援にならないよう心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の様子を随時お伝えしながら、ご家族からのお話をお聞きするなど情報の共有を図り、入居者様を共に支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行事のドライブなどに馴染みの場所を組み入れたり、電話、来訪、手紙のやりとりなど極力支援に努めている。 | 定義山参りに行ったり、電話で家族と近況を話す方もいる。毎週のように面会に来る家族もあり、来訪の際にはゆっくり過ごせるような支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | なごやかな関係が築けるように話しかけの仲介をしたり、レクリエーションを通じてお互いを認識していただいたりしている。なごやかな雰囲気作りを心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に移られた方には後日、面会に訪れ入院者にはまめに面会を行っている。ターミナルを迎え退居された方の場合にはご家族からの相談に積極的に対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントや日々の交流などを通してひとりひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 | 日常の会話や言動から把握している。把握困難な場合はいろいろな質問をし、それに対する返事・表情から察知している。その人の思いを汲み取り、楽しく安らぎのある生活を送ることの出来る支援を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | カンファレンス、アセスメントなどで情報を共有し合いながら把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子を記録し、申し送りなどで状況の変化を伝えるなど早めに対応できるよう情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人とご家族の参加は難しいが、日常的に思いを汲みとり反映できるようケアマネジャーとスタッフが中心となってモニタリングをし、介護計画を作成している。 | 定期的な担当者会議や入居者との日々のコミュニケーションから現状を確認している。医師の助言を受け、痛みなく、苦しくなく、家族の負担にならない様に見直しを行い家族に説明し同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 些細な変化も記録に残し、職員で情報を共有することで新たな気づきが発見され、より的確なケアプランの実施、変更に役立っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ひとりひとりの状況を把握し、必要に応じたサービスの提供に努めている。また思いの変化に合わせ、希望に添えるように対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | アセスメントを半年に1回行い、ひとりひとりに合わせた生活を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的にかかりつけ医の往診があり、必要な場合は24時間以内に対応していただいている。 | 月2回かかりつけ医の往診により日常の健康管理、緊急時にも迅速に対応できる体制となっている。歯科についても訪問診療で対応している。受診予定は「さくら通信」に記し家族に知らせている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師に入居者様の日々の情報を伝えバイタルチェックをすることで体調を把握し、適切な医療処置に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族様との関係を保ち、入院中の状態を把握し入院先との情報の共有に努め、一日も早い退院となるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族様と医療関係者との連携を図るよう早期から配慮し、必要に応じた支援に努めている。 | 入居時に終末期の基本的な考え方の説明を書面で行い、同意書を取り交わしている。但し直面した場合には、必要に応じて状況の説明を行い、その都度書面で意思確認を行っている。これまで多数の看取り経験がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | カンファレンスの際に研修を行ったり、消防署の指導により救命救急講習を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている | 年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。その際、地域の婦人防火クラブのメンバーにも参加していただいている。 | 年2回ユニットA・ユニットBより交互の出火と夜間想定を基に避難訓練を実施している。今年度、職員の声掛けにより婦人防火クラブ、近隣住民も見守り役として参加協力を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ”〇〇さん”とお名前でお呼びすることで、尊重した対応となるよう心がけている。 | 〇〇さんと名前で呼びかけている。会話は大声を出さない、他人に聞こえないように等、具体的な事例を挙げ研修を行い、プライバシーを損ねないケアを実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の思いを把握するよう心がけ、ご本人の意に添うような生活ができるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | お一人ずつの生活ペースに合わせた生活を心がけると共に、ご希望を把握するよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容師が来て好みの髪型に切っていただいている。日常のコーディネートに関しては好みを尊重しつつお手伝している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日にはご本人の希望の食事を提供している。一緒に食器の片づけなどもしてもらっている。 | 栄養面について管理栄養士の指導を受けている。食事時には職員が入居者の隣に座り、話をしながら食事をしている。誕生会等では、入居者の希望を取り入れ食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分は食事とおやつ以外でも希望や必要に応じて提供している。また野菜ジュースなど好みに合わせたものを提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎日行っている。週1回口腔ケア・歯科医の診察を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | おひとりおひとりの動きを見極め状況を判断するよう心がけている。細やかな声がけと共に、時間を見計らって定時の介助にあたっている。 | 排泄パターンは24時間表で把握し、昼夜を問わず誘導している。夜間対応は居室にポータブルトイレを置き、パッド交換等に対応する。声掛けは、尊厳を重視し「待つて」等の言葉は慎んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 整腸剤の服用、野菜ジュースやセンナ茶などで対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者様の意向に添うように支援している。体調の優れない方については清拭、足浴に切り替えるなど対応している。 | 3日に1回の入浴をしている。寝たきりの入居者には子供用のプールを活用するなど工夫している。室温に配慮し脱衣所に床暖房を設置している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の希望に添って休息したり、気持ちよく眠れるよう季節ごとに配慮し工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 管理者からの情報を受け、誰が見てもわかるように掲示し情報を共有している。個々の薬箱に薬名、数量、効能、期日を記入し把握している。新しい薬の処方があった場合は症状の変化を連絡している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 年間行事やボランティアによるレクリエーションや外部の行事に参加するなど気分転換の支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年間の行事計画を立て実施している。個別に希望があれば実現するよう努めている。 | 松島方面のドライブや秋保名物「おはぎ」を買いに行っている。散歩や近所での買物等、要望に応じた個別支援につとめている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 捨てたりなくすことが多々あるため、できるだけご本人による自己管理はしないようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご希望により自宅に電話をかけたいたりしている。いただいた電話には対応していただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとに置物や壁掛けなどで季節感を表すよう工夫している。季節により加湿器を利用し寒暖の差をなくすように廊下に暖房を入れている。清潔を保つための清掃は毎日行っている。 | ユニットAは洋風、ユニットBは和風の絵、写真等を壁に掛け、落ち着いた雰囲気である。廊下は床暖、リビングには加湿器があり、適温湿の管理がされている。入居者はゆったりと椅子にもたれかかり寛いだ様子で落ち着いて過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 状況に応じて席を替えたり、ソファの位置を工夫し和やかな会話がはずむように工夫している。一人を好む方は居室でリラックスしていただいている。隣のユニットとの交流も心がけている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、馴染みの物や好みの物を持ってきていただくようお願いしている。ダンス、テレビなど自由にレイアウトされている。 | 全室洋間、床暖で適温に管理され清潔に保持された快適な居室である。入居者各々が家族の写真、テレビ等馴染みの物を持ち込んで、本人が心地良く過ごせるよう工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、トイレ、お風呂場の手摺設置、段差解消など安全にお一人で動くことができるよう工夫している。 | | |